『西南アジア研究』No. 93, 2021

ヒッタイト語における不規則な 3 人称複数過去語尾 -ar

The Irregular 3 pl. Preterite Ending *-ar* in Hittite

吉　田　和　彦
Kazuhiko YOSHIDA

Abstract　The plural endings for the indicative active verb in Hittite are basically the same for *mi-* and *ḫi*-verbs. In the 3 pl. preterite *-er* is overwhelmingly prevalent, but there are some irregular 3 pl. preterites in *-ar*. They are *uemiiar* 'they found', *ḫāniiar* 'they drew it', and *šaušiiar* 'they scouted'. A detailed philological analysis reveals that they share one important common feature : they are all root-accented *ie/o*-verbs.

The Anatolian languages lost word final *-r* at the Proto-Anatolian stage when it was not immediately preceded by the accent. As a result, the verbs with posttonic *´-ie-* dropped *-r* (**´-ier*> **´-ie*). Since the verbs with posttonic *´-ie-* were a minor class, it is only natural to assume that they recovered the final *-r* by analogy (**´-ie* → **´-ier*). The most straightforward way of deriving *-iar* from its pre-Hittite form **´-ier* is obviously a phonological rule by which posttonic **´-er* becomes *-ar* in Hittite, whereas the accented *-ér* remains unchanged. This is a one man sound change because there are not any additional cases in which this rule was applicable after word final *-r* was analogically restored. However, phonological behavior parallel to this supposed sound change is observed in word final **-eN* : Proto-Anatolian **´-eN* becomes Hittite *-aN* whereas Proto-Anatolian **-éN* becomes Hittite *-eN*.

It should be noted that the 3 pl. preterites in *-ar*, i. e. *uemiiar*, *ḫāniiar*, and *šapašiiar* are attested in a relatively early period of Hittite. The conclusion is inescapable that these forms are precious examples of remarkable antiquity that resisted the analogical generalization of *-er*.

Keywords　Hittite（ヒッタイト語），Anatolian languages（アナトリア諸語），phonological rule（音韻規則），verbal endings（動詞語尾）

は　じ　め　に

ヒッタイト語の能動態動詞には，mi-活用動詞と ḫi-活用動詞の2種類がある。両者の基本的な語尾は以下のとおりである[1)]。

		mi-活用動詞	ḫi-活用動詞
現在単数	1人称	-mi	-ḫi
	2人称	-ši	-ti
	3人称	-zi	-i
複　数	1人称	-ueni	
	2人称	-teni	
	3人称	-nzi	
過去単数	1人称	-(n)un	-ḫun
	2人称	-š	-ta
	3人称	-t	-š
複　数	1人称	-uen	
	2人称	-ten	
	3人称	-er	

この活用表から明らかなように，複数形語尾については mi-活用動詞と ḫi-活用動詞のあいだに違いがなく，同一である（現在複数1人称-ueni，2人称-teni，3人称-nzi，過去複数1人称-uen，2人称-ten，3人称-er）。しかしながら過去複数3人称に関して，一般的な語尾は-er であるが，-ar によって特徴づけられる少数の形式があることを Neu（1989）は指摘した。それらは，ú-e-mi-ia-ar ‘they found’ KUB 17.10 i 37[2)]，ḫa-a-ni-ia-ra-at[3)] ‘they drew it’ Bo 6472, 12, ša-ú-ši-ia-ar ‘they scouted’ Maşat-Höyük Brief 6, Rs. 22 である。これら3例のうち3番目の形式については，Alp（1991 : 128）では ša-ú-ši-ia-ar と転写されているが，Kloekhorst（2008 : 244）が指摘しているように，ša-pa-ši-ia-ar と読まなければならない。これら3例以外にも，一見-ar を持っているようにみえるが，解釈が難しい例がいくつかある。たとえば，pí-iš-kar ‘they gave’ KUB 38.3 i 17 と dam-m[i-i]š-šar ‘they

1）　ただし古期ヒッタイト語の現在単数1人称と2人称には，-ḫe および-e という古い語尾が記録に残っている。mi-活用動詞の過去単数1人称については，母音語幹では-nun が，子音語幹では-un が使われる。これ以外にも，時代によって綴りのバリエーションがみられる。近年のヒッタイト語文献学の進展によって，ヒッタイト語は古期ヒッタイト語（紀元前約1650年－1450年），中期ヒッタイト語（紀元前約1450年－1380年），後期ヒッタイト語（紀元前約1380年－1175年）に時代区分できるようになった。ヒッタイト語楔形文字粘土板を時代区分するための文献学的手法については，Yoshida（2021 : 198–200）において説明されている。

2）　たとえば KUB 17.10 i 37 は，KUB（＝Keilschrifturkunden aus Boghazköi）という楔形文字粘土板の模写テキストの第17巻の10番の写本のコラム1の37行目に問題の形式が記録されているという文献学的情報を表している。

3）　ḫa-a-ni-ia-ra-at は，ḫāniiar という動詞に中性単数主格・対格の後倚辞代名詞-at が付与されている。

oppressed' KBo 3.38 Rs. 29 である。この 2 例は-ar という語尾を持っているようにみえるが，転写が必ずしも信頼できない。なぜなら，kar と šar という文字はそれぞれ ker_8と $šer_9$とも読めるからである。この読みを取るならば，うえの 2 つの形式は pí-iš-ker_8および dam-m[i-i]š-$šer_9$と転写され，規範的な語尾-er を持っていることになる。さらに-ar を持つ他の形式として zi-na-ar KUB 25.1 i 37 があるが，Neu（1989 : 16）が論じているように，この形式はヒッタイト語ではなく，おそらくハッティ語起源と考えられる。以上の解釈が定まらない例や正体不明の例は以下の議論において除外し，確実に-ar という特徴を持っている ṵemiiar, ḫāniiar, šapašiiar の 3 例を分析の対象にして，語尾-ar に歴史言語学的な説明を与えることが本稿の目的である。

I　この問題に関する先行研究

3 人称複数語尾-ar を歴史的な立場から明らかにしようとする研究は，これまで 3 つ提出されている。まず Neu（1989）は-ar が印欧祖語の *-or に由来すると考えた。*-or という再建形を要求する形式は他のどこにもみられないために，彼は-ar が二次的な影響を受けていない古い形式であるとする。しかしながら問題に関与する 3 つの形式，ṵemiiar, ḫāniiar, šapašiiar はすべて-ia-という接辞で特徴づけられている。この点について，ie/a-クラスの能動態動詞が前ヒッタイトの時期に，さらにアナトリア祖語の時期に *-io-（＞ヒッタイト語-ia-）を持っていたことを示す根拠が皆無であることが Yoshida（2010, 2014）において実証的に示されている[4]。補遺に示した古期ヒッタイト語のデータをみれば，少数ながら接辞-ia-を持つ形式がある。それらは pé-eš-ši-ia-mi KBo 17.3 iv 18 'I throw', pé-eš-ši-ia-u-e-ni KUB 35.164 iii 6 'we throw', ú-e-mi-ia-u-en KBo 22.2 Vs. 14 'we found', ḫu-la-a-li-ia-mi KBo 17.1 iii 22, KBo 17.6 iii 14 'I entwine' という 5 つの形式である。これらに含まれる-ia-は，「アナトリア祖語 *e は共鳴音の前のアクセントを有しない開音節においてヒッタイト語で a になる」という音法則によってつくられたものであり[5]，*-io-には遡ら

4） 本稿末の補遺において，古期ヒッタイト，中期ヒッタイト，後期ヒッタイトの時期のオリジナルの粘土板に記録されたすべての ie/a-クラスの能動態動詞を語幹別に示した。ただし後の時期に写し直された粘土板は扱っていない。ヒッタイト語の各時期の文法を記述する際，オリジナルの粘土板の重要性は言を俟たない。補遺のデータから読み取れることは，古期ヒッタイト語においてはつぎに本論で分析する例を除けばすべて-ie-で特徴づけられるが，後の時期では-ia-を持つ形式への推移がみられる。中期ヒッタイト語のデータでは，-ia-が顕著に増加しているが，-ie-を保持している例もみられる（iš-pár-ri-ez-zi, pé-eš-ši-et, šu-ni-et, tu-u-ri-e-ez-zi, ú-e-mi-e-ez-zi, ú-e-mi-ez-zi, ú-e-mi-et）。さらに後期ヒッタイト語のデータでは，-ie-を維持している割合がいっそう少なくなっている（ḫu-ul-li-i-e-et, šar-ri-et, šu-ul-li-e-et, šu-ul-li-et, ti-i-e-ez-zi, ti-i-e-et, ṵa-ag-ga-ri-ez-zi）。この形態変化は一方向的である。

5） この音法則はつぎのような例にも作用した。能動態現在 1 人称複数語尾-ṵani（<*´-ṵeni），能動態現在 2 人称複数語尾-tani（<*´-teni）（この 2 つの例に関しては，Yoshida 1997 を参照），u-語↗

ない。ただし古期ヒッタイト語のデータには，pé-eš-ši-e-mi KBo 17.1 iv 22 および ḫu-la-a-li-e-mi KBo 17.3 iv 23 のように，-i̯a-ではなく-i̯e-を持つ例もみられる。これらは，うえの音法則が適用されない形式（-i̯e- ＜ *-i̯é-）および動詞パラダイムの他の位置で保持された-i̯e-から，二次的な形態的影響を受けたものと考えられる。同様に，補遺には-i̯anzi で終わる3人称複数が多数みられるが，そこに含まれるaは「アナトリア祖語 *eN は歯茎音の前でヒッタイト語において aN になる（N は鼻音）」という音法則によって祖語の *-i̯enti から歴史的に導かれる[6]。以上の議論から，i̯e/a-クラスの能動態動詞はアナトリア祖語の時期に接辞 *-i̯e-で特徴づけられていたことが明らかで，Neu が考えた *-or という再建は受け入れることができない。

つぎに Kloekhorst（2008 : 244-5）は，-ar を持つ3人称複数過去形が i̯e/a-クラスの動詞に中期ヒッタイト語の時期以降に起こった-i̯e-から-i̯a-への接辞にみられる形態変化の結果であるが，そのようにしてつくられた-ar は規範的な語尾である-er によってすぐに駆逐されたと主張した。たしかに，接辞-i̯a-が後のヒッタイト語の特徴であることは，Carruba（1962 : 79ff.），Watkins（1969 : 71），Oettinger（1979 : 27）によって以前から指摘されている。それはヒッタイト法律文書に記録されている古期ヒッタイト語の i̯e/a-クラス動詞，a-ni-e-ez-zi ‘makes’ KUB 29.30 ii 21, KUB 29.30 ii 22 が後の時代のコピーの対応する箇所では，それぞれ a-ni-i̯a-zi KBo 6.26 i 13, KBo 6.26 i 15 のように書き改められていることからも裏付けられる（Yoshida 2009 : 272）。しかしながら，Kloekhorst の見方には問題点が2つある。ひとつは古期ヒッタイト語の-i̯e-が後の時期に-i̯a-になるのは，補遺に示したデータから明らかなように，一方向的な変化であり，しかも他の人称・数の例と異なり，3人称複数の-i̯ar の例は極端に少ない。もうひとつは i̯e/a-クラス動詞の3人称複数過去形にも実際に-i̯e-から-i̯a-への交替がみられるが，交替後の形式は-i̯ar ではなく，-i̯aer であるという事実である（a-ni-i̯a-er ‘carried out’ KBo 12.3 iii 10, a-ri-i̯a-er ‘determined by oracle’ KBo 4.6 Vs. 26, ši-i̯a-er ‘impressed’ KBo 3.3 iv 5, ti-i-i̯a-er ‘stepped’ KBo 12.38 iii 6）[7]。したがって，Kloekhorst の見方も説得性を欠いている。

アクセントと母音交替に関する基本的原理に基づいて，Yoshida（1991 : 364）は-ar の祖

↘ 幹形容詞属格 āššau̯aš（＜*h₁és-eu̯-os）‘good’，i-語幹形容詞属格 šallai̯aš（＜*sélH-ei̯-os）‘great, large’。

6） ヒッタイト語 anda ‘in(to)’ に対応するラテン語 endo を参照されたい（cf. Melchert 1994 : 134）。なお3人称複数現在形が一般的な-anzi ではなく，-enzi という語尾を取る例が後の時期にみられる（a-ra-an-da-al-li-en-zi, ti-en-zi, t [i-e] n-zi）。その理由は，対応する3人称単数形（ti-i-e-ez-zi）からの二次的な形態的影響と考えられる。同じ変化は楔形文字ルウィ語にも観察される。ˀpa-ar-ri-en-ti ‘they smite’, ˀtar-ši-en-ti ‘they vomit’, ti-u̯a-da-ni-in-ti ‘they swear’ and zu-zu-n[i-i]n-ti ‘?’（Yoshida 2012 : 346）。

7） これらの例はすべて後期ヒッタイト語の粘土板に記録されているために，ヒッタイト語の歴史の比較的古い時期に記録されている u̯emii̯ar, ḫāniii̯ar, šapašii̯ar とはまったく違った歴史をたどったと考えられる。これらの-i̯aer を持つ動詞の成立過程については稿を改めて論じたい。

形として *´-r̥（>*-ar）を再建した。音法則の立場では，*r̥ がヒッタイト語で ar になることは，たとえば r/n-語幹名詞単数主格・対格 u̯atar ‘water’（<*u̯ód-r̥）などの例から保証される。ヒッタイト語にみられる-er（<*-ér）と-ar（<*´-r̥）というパターンは，ラテン語の 3 人称複数の完了語尾-ēre（<*-ēr（+i）<*-érs）とインド・イラン語派のサンスクリット語-ur およびアヴェスタ-ərəs にみられるパターン（両者は *´-r̥s から導かれる）と完全に並行的である。しかしながら，母音的な-r̥ は母音で終わる接辞 *-i̯e-の後では子音として機能するために，アナトリア祖語では *-u̯er になるはずである。この *-u̯er からヒッタイト語の-ar を導くことは不可能である。

以上，3 件の先行研究を批判検討したが，どの見方も-ar の来源を満足に説明できるものではないことが明らかになった。

Ⅱ　3 人称複数過去語尾-er の先史

問題となる語尾-ar を詳細に分析する前に，アナトリア諸語の動詞体系という広いコンテクストのなかで議論を進めるために，以下の 2 つの重要な問題についてまず考えたい。

（1）3 人称複数過去語尾-er において，なぜ語末の-r が一貫して保持されているのか？
（2）mi-活用動詞と ḫi-活用動詞は，なぜ 3 人称複数過去語尾として同一の-er を持っているのか？

まず 1 番目の問題から始める。アナトリア祖語において中・受動態動詞現在形は少なくとも 3 人称において語末の-r を印欧祖語から継承している。同じ状況はイタリック語派，ケルト語派，トカラ語にも反映されている。アナトリア祖語の時期に，語末の-r はアクセントを有しない音節の後で消失した[8]。この変化の後で，アクセントを持っていた語尾 *-ó の後で r が存続した *-ór に，能動態現在語尾に特有である非過去を表す小辞-i が広がった。この後期アナトリア祖語の状態を古期ヒッタイト語は基本的に保持している。eša ‘sits’, kitta ‘lies’, kianta ‘they lie’ では語末音節がアクセントを持っていなかったために-r が消失しているのに対して，語末音節にアクセントを持っていた duqqāri ‘is visible’ は-ri で特徴づけられている。この-ri は，後のヒッタイト語内部の歴史のなかで徐々に広がり，後期ヒッタイト語ではほぼ義務的に使われるようになった[9]。

アクセントを有しない音節の後での-r の消失が予想される別の例として考えられるのは，ここで問題となる 3 人称複数過去語尾-er である。Eichner（1975 : 87）と Oettinger（1979 :

8） Yoshida（2011）では，「アクセントを有しないモーラの後で」と解釈を改めている。
9） この発展については，Yoshida（1990）の第 3 章で詳細に論じられている。

114)は，この-er をラテン語の３人称複数完了語尾-ēre に比定して，-r が語末にないと考えているが，その見方は誤っている。Ⅰ節でみたように，ラテン語-ēre は本来の完了語尾 *-ēr（<*-érs）に小辞-i が付与された後，語末母音-i が-e になった結果である。小辞-i の付与は単数１人称，２人称，３人称の完了語尾にも同様にみられる（1 sg. -ī, 2 sg. -istī, 3 sg. -it<*-h_2e+i, *-[is]th_2e+i, *-e+i[t]）。したがって，ヒッタイト語の-er の r は語末にあったと考えられる。語末の *-r の消失が生じたとき，-i-を持つ動詞は-r を保持した。なぜなら-r の直前にアクセントがあったからである（たとえば，piḗr ‘they gave’, ḫalziḗr ‘they called’）。さらに，ške/a-クラスおよび i̯e/a-クラスの語尾 *-sk͡ér と *-i̯ér は，本来の *-sk͡ént と *-i̯ént に形態的に取って代わったものであるが，この形態変化は-r の消失以前に生じたと考えなければならない（cf. Yoshida 1990 : 114 および Yoshida 1991 : 366）。以上の例は，３人称複数過去語尾において語末の-r が類推によって復活するための十分な源となったと考えられる。

つぎに，うえの２番目の問題に移る。古い時期のアナトリア祖語の３人称複数過去語尾はつぎのとおり再建することができる[10)]。

	前期アナトリア祖語
mi-活用動詞	*-ént～*´-n̥t
ḫi-活用動詞	*-ér～*´-r̥
中・受動態	*-énto～*-n̥to～*-n̥tó

この状態はともにアナトリア祖語の時期に起こった２つの変化によって部分的な変容を受ける。ひとつはうえで論じた ške/a-クラスおよび i̯e/a-クラスの本来の語尾 *-sk͡ént と *-i̯ént が，ḫi-活用動詞の影響を受けて *-sk͡ér と *-i̯ér となる変化である。おそらく *-er という語尾は本来の mi-活用動詞語尾 *-ént と *´-n̥t を完全には駆逐しなかったと考えられる[11)]。その結果，*-er と *-ént/*´-n̥t は後期アナトリア祖語の時期に共存していた。もうひとつの変化は語末の-t が n の後で脱落する変化である[12)]。この変化によって mi-活用動詞語尾 *-ént は *-én になった。この２つの変化の後の後期アナトリア祖語の状態はつぎのように再建される[13)]。

---

10)　Yoshida（1991 : 371）を参照。完了とは異なり，ḫi-活用動詞の語尾 *-ér と *´-r̥ が本来末尾に-s を持っていたことを示す直接の根拠はない。もちろん *-érs と ´-r̥s という語尾の再建を完全に排除することはできないが，その場合は容易には復元することのできない複雑な先史をヒッタイト語がたどったことになる。

11)　これは 1990 年秋，オックスフォード大学の客員研究員だった時に故 Anna Morpurgo Davies 教授から受けた助言である。

12)　この変化は nt-語幹名詞の中性主格・対格単数形にもみられる。たとえば中性主格・対格単数 ḫūman ‘all’ に対して，属格は ḫūmandaš である。

13)　新しくつくられた語尾は太字で示している。アクセントの位置は議論を不必要に複雑にしないように省略した。

	後期アナトリア祖語
mi-活用動詞	***-én**～*´-n̥t～***-er**
h̯i-活用動詞	*-ér～*-r̥
中・受動態	*-énto～*-n̥to

この状態はアナトリア語派のどの言語においてもそのままのかたちでは保持されていない。ヒッタイト語では h̯i-活用動詞語尾 *-er を mi-活用動詞に一般化した。他方，ルウィ系諸言語では共通ルウィ語の時期に，違った方向の変化が生じた。mi-活用動詞の 3 つの語尾のうち，3 人称複数過去語尾として十分に特徴づけられていない *-en はその機能的位置を明確化するために中・受動態の *-ento に取って代わられた[14]。さらに，*-er と *-r̥ という語尾は中・受動態起源の *-ento や *-n̥to によって駆逐された。残った中・受動態語尾は共時的に能動態過去の機能も果たすようになった（楔形文字ルウィ語-nta，象形文字ルウィ語-ⁿta，リュキア語-ⁿte, -ⁿtē）[15]。ルウィ系諸言語の過去形動詞において，能動態と中・受動態の形態的区別がない理由は以上のように説明される（cf. Yoshida 1993）。

Ⅲ　3 人称複数過去形語尾-ar の歴史的言語学的解釈

本節では，本稿のはじめで示した-ar という不規則な 3 人称複数過去語尾を持つ，3 つの形式，u̯emiiar, h̯āniiar, šapašiiar に対して歴史的言語学的解釈を与える。このうち u̯emiiar と šapašiiar は中期ヒッタイトの時期の粘土板に記録されている。h̯āniiar については記録された時期が不明である。

まず u̯emiiar（<*au-h₁ém-i̯e-r）については，語根に含まれている母音が e であるために語根にアクセントがあったと考えられる。アクセントを有しない *e は条件によってヒッタイト語で i または a になる。語根にアクセントがあったという解釈は，同じ動詞の 3 人称単数現在形 ú-e-mi-zi ‘finds’ KBo 6.2 iv 12 からも支持される。この形式は古期ヒッタイトの時期の粘土板に書かれている，古い形式である。語尾-zi の z が母音間においてシングルで書かれていることから（通常古期ヒッタイト語では ú-e-mi-ez-zi KBo 6.2 iii 58 のようにダブルの zz で書かれる），この語尾は *-di に遡り，d が i の前で破擦化した結果，弱化したシングルの z を持つ-zi になったと考えられる。また語尾 *-di は印欧祖語の *-ti に由来するが，

14）-n と-nt-のあいだにみられる，同様の形式上の結びつきは nt-語幹名詞にも観察される。たとえば楔形文字ルウィ語単数呼格 ᴰU-an ‘Storm God’ と単数与格 ᴰIŠKUR-unti を比較されたい。この指摘は Anna Morpurgo Davies から受けたものである。

15）類似した形態変化がリグ・ヴェーダにみられることが Jamison（1979）によって報告されている。彼女によれば，能動態 3 人称複数の 2 次語尾 *-ant の末尾の t の消失によって（*-ant>*-an），3 人称複数であることを形式的により明示的に示すために，中・受動態の-anta が能動態のパラダイムに編入された。この形態変化はリグ・ヴェーダにおいては限られた範囲でしか起こらなかったが，ルウィ系諸言語では全面的に起こった。

アナトリア祖語の時期に生じた子音の弱化第 1 規則によって，t が d になった[16]。

つぎに ḫāniiar であるが，本稿の冒頭で示したようにこの形式は音節文字で ḫa-a-ni-ia-r=a-at と綴られており，語根にアクセントの位置を示す溢音（scriptio plena）-a- を持っている。3 人称複数現在形の ḫa-a-ni-ia-an-zi KBo 23.27 iii 12 も，同じく語根に溢音 -a- を持っている[17]。ie/a- クラスの動詞はパラダイムを通してアクセントの位置が一定であるために，ḫāniiar も語根にアクセントがあったことが保証される。

3 番目の例，šapašiiar は Maşat-Höyük 書簡群の以下の箇所に記録されている。*kiššan=ma=mu kuit ḫatrāeš kāša=wa* LÚ.MEŠ***šapašalliēš*** *AŠPUR nu=wa* URU*Malazzian* URU*Taggaštann=a* ***šapašiiar*** “Concerning that you wrote to me as follows : ‘I just sent scouts, and they scouted Malazziya and Taggašta.’” （Maşat-Höyük Brief 6, Rs. 17-22）[18]。注目すべきであるのは，この箇所に šapašiiar と同じ語根を共有する名詞の形式である LÚ.MEŠšapašalliēš ‘scouts’ が記録されていることである。šapašiia- という動詞は Maşat-Höyük 書簡群にのみ現れる。その他の例は以下のとおりである。3 人称複数命令形 [ša-p]a-ši-an-du 87 Vs. 4, ša-pa-ši-ia-an-du 7 Vs. 11, 不定詞 I ša-pa-ši-ia-u-a[n-zi] 7 Vs. 6, ša-[p]a-a-ši-ia-u-an-z[i] 17 Vs. 17。しかしながら，他方で šapašalli- という名詞は Maşat-Höyük 書簡群が 21 世紀後半に発見される以前にすでに知られていた。それは Madduwatta 書簡の以下の箇所に記録されている。*zik=ma* m*Madduwa [tt] aš* ANA KUR.KUR.ḪI.A LÚ.KÚR LÚ*auriyalaš* LÚ***šapāšalliš*** [*ēšta*] “You, Madduwatta, were an outpost man and a scout/lookout against the enemy lands.” KUB 14.1 Rs. 12[19]。

このLÚšapašalliš ‘scout, lookout’ という名詞に関して，Szemerényi（1976 : 1069）はそれがサンスクリット語 spaś- ‘Späher, Wächter, Aufseher’ やアヴェスタ spas-（<*spek̑-）と語源的に関係のあるアーリヤ語からの借用語であると主張した[20]。意味のうえでは，この解釈は文脈によく合う。しかしながら，反論も可能かもしれない。Kloekhorst（2008 : 725）が述べているように，印欧祖語の語頭の *sT- 連続はヒッタイト語で通常 šaT- ではなく，一般に išT- と綴られるからである[21]。したがって，もしもLÚšapašalliš が印欧祖語の語根 *spek̑- を含んでいるなら，LÚišpašalliš と書かれることが予想される。しかしながら，この形式が *sT->išT- という変化が起こった後にヒッタイト語に借用されたと考えるなら，この問題は

16）Yoshida（1998）を参照。子音の弱化第 1 規則はアクセントを持たない短母音間に生じた。一方，子音の弱化第 2 規則はアクセントを有する長母音または二重母音の後に生じた。詳しくは，Eichner（1973 : 79-82, 100 注 86）と Morpurgo Davies（1982/83 : 262）をみられたい。

17）この形式は中期ヒッタイト語の粘土板に記録されている。

18）Güterbock et al.（2002 : 205）からの引用。問題となる形式はボールド体でマークしている。

19）Güterbock et al.（2002 : 204）からの引用。Madduwatta 書簡は中期ヒッタイトの粘土板に書かれている。

20）同じ見方がそれより以前に van Brock（1962 : 115）によって示されている。

21）T は無声閉鎖音を表す。

解消される。もうひとつの可能な反論は，Sturtevant の法則を順守していない点である。Sturtevant の法則とは，印欧祖語の無声阻害音はヒッタイト語において母音間においてダブルで書かれるのに対して，有声阻害音はシングルで書かれることをいう。したがって，LÚšapašalliš はシングルの -p- ではなく，ダブルの -pp- を持つLÚšappašalliš と書かれることが予想されるが，そうはなっていない。しかしながら，Watkins（1982 : 455）が指摘しているように，語頭の無声子音の連続においてシングル表記がなされる例もある。たとえば，šipand- ‘libate’（<*sp-），ḫatugi- ‘terrible’（<*h_2t-）などである。LÚšapašalliš をアーリア語からの借用とする Szemerény の解釈について，Mayrhofer（1982 : 86）は大胆な仮説として慎重な立場を取っている。他方，Kloekhorst（2008 : 726）は肯定的である。もしも借用語であるなら，LÚšapašalliš という名詞に対応する šapašiia- という動詞もミタンニ・アーリアンの *spaśya- ‘see’（<*spék̑-ie/o-）からの借用語ということになる[22]。šapašiia- をアーリア語からの借用と考えるもっとも魅力的な点は，問題に関与する -ar を持つ 3 つの動詞（uemiiar, ḫāniiar, šapašiiar）がひとつの共通の特徴を持つようになる点である。その共通の特徴とは，それらがすべて語根にアクセントのある ie/o- 動詞であり，接尾辞 *-ie/o- にアクセントを持っていなかったことである。この特徴は，4 章で示されるように，-ar によって特徴づけられる動詞の先史を統一的なやり方で明らかにするうえでの鍵となる。

Ⅳ -ar を持つ 3 人称複数過去形の先史

後期アナトリア祖語の時期には，印欧祖語から継承されたか，あるいはアナトリア祖語の早い段階に新たにつくられたかにかかわらず，さまざまな動詞クラスが存在した。代表的なクラスには以下のものが含まれる。1）i- 動詞（3 人称単数 pāi ‘gives’, 3 人称複数 piianzi），2）sk̑e/o- 動詞，3）語根にアクセントがある ie/o- 動詞，4）接尾辞にアクセントがある ie/o- 動詞，5）Narten タイプの動詞（1 人称単数過去形 uekun ‘I asked’，3 人称複数現在形 uēkkanzi）[23]。これらの動詞クラスについて想定される先史は，以下のように示すことがで

22） 語根にアクセントがあることに注目されたい。*spek̑- という語根は，ラテン語 speciō，ギリシア語 *σκέπτομαι*，古高地ドイツ語 spehōn にも含まれている。

‘see’ から ‘scout’ への意味の推移についての類型的な並行例がリトアニア語にみられる。リトアニア語の žvalgyti という動詞は žvelgti ‘to look’ の反復相であるが，本来は ‘keep looking’ を意味していた。現代リトアニア語では žvalgyti は ‘inspect, examine（by looking around）’ という意味，特に ‘scout, reconnoiter’ という意味を持つようになった。この情報を提供してくれた Aurelijus Vijūnas に謝意を表したい。

23） Narten タイプは，母音交替の強語幹は語根がアクセントを有する é，弱語幹は語根がアクセントを有する é で特徴づけられる（cf. Narten 1968）。1 人称単数過去形 uekun /wḗg-un/ は語根にアクセントのある長母音を持っていたために弱化規則が適用された結果，シングルの -k- を持っている。他方，3 人称複数現在形 uēkkanzi /wék-antsi/ はアクセントのある短い é が語幹に含まれているために弱化が起こらず，ダブルの -kk- を持っている。

きる。

	i-動詞	sk̄é/o-動詞	i̯é/ó-動詞	´-i̯e/o-動詞	Narten タイプ
アナトリア祖語	-iér	-sk̄ér	-i̯ér	´-i̯er	´-r̥
語末の-r の消失	—	—	—	´-i̯e	—
r̥>ar	—	—	—	—	´-ar
語末の-r の復活	—	—	—	´-i̯er	—

アナトリア祖語においてアクセントが直前にない場合は，語末の-r は消失した。その結果，´-i̯e/o-動詞は語末の-r を失った。語末の-r の消失は母音的な-r̥ には作用しなかった。その理由は，r/n-語幹名詞単数主格・対格（たとえば，u̯atar ‘water’<*u̯ód-r̥）が一貫して-r を保持していることから裏付けられる。この変化の後，*-r̥ は *-ar になった（cf. Melchert 1988 : 223, Yoshida 1990 : 112）。直接の根拠となるデータは欠けているが，Narten タイプの動詞はその先史において 3 人称複数過去語尾として *-ar を持っていたと考えられる。また語末の-r を失った ´-i̯e/o-クラスに属する動詞は比較的少数であるので，類推によって語末の-r を復活させたと考えることはまったく自然である。このようなプロセスを経て，すべての動詞クラスの 3 人称複数過去形はもう一度語末に-r を持つようになった。

前節において，-ar を持つ 3 つの動詞 u̯emi̯ar，h̯āni̯ar，šapašii̯ar がすべて語根にアクセントのある i̯e/o-動詞であることが明らかになった。これらの形式を前ヒッタイト語の *´-i̯er から導くためのもっとも自然な方法は，*´-er がヒッタイト語で-ar になるという音法則の提案である。この音法則を裏付ける独自の根拠は他にはない。なぜなら，語末の-r が類推によって復活した後にこの音法則が適用されたことを示す事例が他にないからである。しかしながら，この音法則とまったく並行的な音韻的振る舞いが語末の *-eN にみられる[24]。

アナトリア祖語 *´-eN がヒッタイト語で-aN になることは，peran ‘in front’<*pér-em, appan ‘behind’<*ópem, -kan ‘(sentence particle)’<*´-kem などの例によって裏付けられる（cf. Melchert 1994 : 135）。他方，アナトリア祖語 *-éN はヒッタイト語で-eN のまま保持される。この見方を支持する例は，母音交替によって語尾にアクセントを有する能動態過去 1 人称複数語尾と 2 人称複数語尾である（1 pl. -u̯en<*-u̯én, 2 pl. -ten<*-tén）。Melchert（1994 : 135）は，アナトリア祖語の *-eN がアクセントの有無にかかわらず，ヒッタイト語で-aN になると述べている。*-éN が-aN になるという彼の論拠は-u̯an で終わる目的分詞（supine）である。彼は-u̯an を語尾のない単数位格 *-u̯én から導かれると考えた。しかしながら，目的分詞の-u̯an は音法則によるのではなく，二次的につくられたものである。目的分詞が使用されるのは，「～し始める」と意味を表すために dāi- ‘to put’ あるいは ti̯ia- ‘to step’ という動詞と結びつく構文に限られている。しかも，この構文で目的分詞を取る動詞

24）N は鼻音を表す。

の多くは反復を表す接尾辞-ške/a-をともなう。この接尾辞には常にアクセントが置かれるために，*-sk̂é-u̯en と再建される形式から-škiu̯an がうえの音法則によって導かれる。他方，接尾辞 *-sk̂é-をともなわない少数の目的分詞 *-u̯én はヒッタイト語で-u̯en のままであった。そしてこの-u̯en は後に使用例の多い-škiu̯an からの形態的影響を受けた結果，-u̯an になった[25]。以上に示したように，*´-er がヒッタイト語で-ar になるという音法則を提案する利点は，語末の *-er と *-en に対して完全に並行的な取り扱いができることにある[26]。

結　　論

不規則な語尾-ar によって特徴づけられる 3 人称複数過去形，u̯emiia̯r，ḫāniia̯r，šapašiia̯r は，ヒッタイト語の歴史の比較的古い時期に記録されている。この-ar は前ヒッタイト語の時期に生じた音法則によって *´-er から導かれた。これら 3 つの 3 人称複数過去形は一般的な語尾-er からの類推による画一化を受けなかった，古い特徴を保持する貴重な形式であると結論付けることができる。Narten タイプの動詞の 3 人称複数過去形もヒッタイト語の先史において *-ar を取っていたことが想定されるが，-ar を持つこのタイプの例が記録に残っていないために，-er によって駆逐されたと考えられる[27]。

補遺　粘土板に記録されている i̯e/a-動詞のリスト

略語

ABoT＝Ankara Arkeoloji Müzesinde Bulunan Boğazköy Tabletleri. Istanbul.

Bo＝Unveröffentlichte Texte aus Boghazköi. Ankara.

HKM＝Hethitische Keilschrifttafeln aus Maşat-Höyük. Ankara.

KBo＝Keilschrifttexte aus Boghazköi. Berlin.

KUB＝Keilschrifturkunden aus Boghazköi. Berlin.

KuT＝Texts from Kuşaklı-Sarissa. Berlin.

Rs.＝Rückseite

25） この変化の詳細については，Yoshida（1997）を参照されたい。

26） 他の語末の共鳴音について，*-em は *-en とアナトリア祖語の時期に合流した。語末の *-el の変化については議論に有効な例が乏しいために，実質的な言明をすることができない。

27） 本稿は 2019 年 6 月にペンシルヴェニア大学において開催された The 38th East Coast Indo-European Conference における発表に補筆したものである。この会議の参加者，とりわけ H. Craig Melchert, Elisabeth Rieken, Michael Weiss からは有益なコメントを頂戴した。またこの論文原稿を読まれた二名の匿名の査読者の方々からは，論点を明確にするうえでの貴重なコメントと質問をいただいた。あつくお礼申し上げたい。なおこの研究を進めるにあたり，日本学術振興会科学研究費補助金 B（JP15H03205）の助成を受けた。

Vs.＝Vorderseite

古期ヒッタイト語

aniia- ‘to carry out’

pres. 1 sg. *a-ni-e-m[i]* KBo 17.1 ii 2

pres. 3 sg. *a-ni-e-ez-zi* KUB 29.30 ii 21, KUB 29.30 ii 22, KUB 29.30 ii 23, *a-ni-ez-zi* KBo 10.10 i 5, *a-ni-ez-zi* KBo 10.10 ii 1

pret. 1 sg. *a-ni-e-[nu-un]* KBo 3.22 Rs. 48

appatariia- ‘to commandeer’

pres. 3 sg. *ap-pa-ta-ri-ez-zi* KBo 6.2 iv 4

ḫappariia- ‘to trade, to sell’

pret. 1 sg. *ḫa-ap-pa-ri-e-nu-un* KBo 3.22 Vs. 20

ḫariia- ‘to bury’

pres. 1 sg. *ḫa-ri-e-mi* KBo 17.1 iii 9, KBo 17.5 ii 2

pret. 1 sg. *ḫa-ri-e-nu-un* KBo 17.3 iii 12, *ḫa-ri-[e-nu-u]n* KBo 17.1 iii 12

ḫazziia- ‘to pierce, to stab’

pres. 3 pl. *ḫa-az-zi-an-zi* KBo 25.33 Vs. 19

pret. 3 sg. *ḫa-[az]-zi-i-et* KUB 36.100 Vs. 31

imper. 3 sg. *ḫa-az-zi-e-e[t-tu]* KBo 3.22 Rs. 51

ḫulāliia- ‘to entwine’

pres. 1 sg. *ḫu-la-a-li-e-mi* KBo 17.3 iv 23, *ḫu-la-a-li-ia-mi* KBo 17.6 iii 14, *ḫu-la-a-li-ia-[mi]* KBo 17.1 iii 22

pres. 3 sg. *ḫu-la-a-li-ez-zi* KUB 37.223 Rs. 3

ḫurtaliia- ‘to hook, to snag’

pres. 3 pl. *ḫu-ur-ta-li-an-zi* KBo 25.54 i 16

kaleliia- ‘to tie up’

pret. 3 sg. *ka-le-li-e-et* KUB 36.100 Vs. 32

karpiia- ‘to lift, to raise’

pres. 3 sg. *kar-pí-i-ez-zi* KBo 6.2 ii 39, KBo 6.2 ii 40, KBo 6.2 ii 46, KBo 6.2 ii 48, KBo 6.2 ii 49, *kar-pí-ez-z[i]* KBo 6.2 ii 42, *[kar-p]í-ez-zi* KBo 6.2 ii 45

pres. 3 pl. *kar-pí-an-zi* KBo 6.2 iii 6, *[kar-p]í-an-zi* KBo 6.2 iii 22, KBo 25.128, 3, *kar-ap-pí-an-zi* KBo 17.30 ii 3

karšiia- ‘to cut, to separate’

pres. 3 sg. *kar-aš-ši-i-ez-zi* KBo 6.2 i 8

kuššaniia- ‘to hire’

pres. 3 sg. *ku-uš-ša-ni-ez-zi* KBo 6.2 ii 27, KBo 6.2 iv 10, KUB 29.30 ii 11

peššiia- 'to throw'

pres. 1 sg. *pé-eš-ši-e-mi* KBo 17.1 iv 22, *pé-eš-ši-ia-mi* KBo 17.3 iv 18

pres. 3 sg. *pé-eš-ši-ez-zi* KBo 6.2 ii 33, KBo 6.2 ii 35, KBo 6.2 iv 6, KBo 6.2 iv 7, KBo 6.2 iv 14, *pé-eš-ši-i-e-ez-zi* KBo 17.43 i 16

pres. 1 pl. *pé-eš-ši-ia-u-e-ni* KBo 39 ii 21, KUB 35.164 iii 6

pret. 3 sg. *pé-eš-ši-et* KBo 6.2 i 15

pret. 3 pl. *pé-eš-ši-e[r]* KBo 6.2 ii 57

šittariia- 'to seal'

pres. 3 sg. *ši-it-ta-ri-ez-zi* KBo 6.2 ii 19, KBo 6.2 ii 24

pret. 3 sg. *ši-it-ta-ri-et* KBo 6.2 iii 19

takkaliia- 'to curl up'

pret. 3 sg. *ták-ka-li-et* KBo 7.14 Vs. 8, KBo 7.14 Vs. 9, KBo 7.14 Vs. 10, KUB 36.100 Rs. 6

tekkušši̯ia- 'to show'

pres. 3 sg. *te-ku-uš-ši-ez-zi* KBo 25.1 b) 2

tiia- 'to step'

pres. 3 sg. *ti-ez-zi* KUB 36.100 Vs. 24, KBo 25.68 Rs. 15, *ti-i-e-ez-zi* KUB 29.30 ii 7, KUB 29.30 ii 8, KUB 29.30 ii 19, KBo 25.12 i 5, *[ti-i]-e-ez-zi* KUB 29.30 ii 16, *[t]i-i-e-ez-zi* KBo 17.31, 9, *ti-i-e-ez-z[i]* KBo 25.31 ii 7, *ti-i-ez-zi* KUB 60.41 iii 8, *ti-i-ez-[z]i* KBo 25.12 i 14, *ti-e-ez-zi* KBo 20.12 Vs. 8, KBo 25.52 ii 9, KBo 25.51 i 10, KBo 17.29 i 5, *ti-e-ez-[zi]* KBo 20.12 Vs. 3, *[t]i-e-ez-zi* KBo 17.11 Vs. 20

pres. 3 pl. *ti-i-en-zi* KBo 17.46 Vs. 24, *ti-en-zi* KBo 20.12 Vs. 4, KBo 20.12 Vs. 6, KBo 30.25 Vs. 20, KBo 25.31 ii 6, KBo 25.34 Vs. 13, KBo 25.39, 3, *ti-en-[zi]* KBo 25.37 Rs. 15, *ti-e-[e]n-zi* KBo 20.12 Vs. 6

tūriia- 'to hitch'

pres. 3 sg. *tu-u-ri-ez-zi* KBo 6.2 iii 60, KBo 6.2 iv 1, KBo 6.2 iv 12, KUB 29.30 ii 20

ūššiia- 'draw open'

pres. 3 pl. *ú-uš-ši-an-z[i]* KBo 10.10 i 2

u̯emiia- 'to find'

pres. 3 sg. *ú-e-mi-ez-zi* KBo 9.73 Vs. 13, KBo 6.2 iii 49, KBo 6.2 iii 58, KBo 6.2 iii 59, KBo 6.2 iv 11, KBo 6.2 iv 49, *ú-e-mi-ez-z[i]* KUB 36.104 Vs. 10, *[ú-e]-mi-ez-zi* KBo 6.2 ii 36, KBo 6.2 iii 35, *ú-e-mi-zi* KBo 6.2 iv 12, *ú-e-mi-ez-[z]i* KUB 29.16, 7

pret. 3 sg. *ú-e-mi-et* KUB 36.99 Rs. 6

pret. 1 pl. *ú-e-mi-ia-u-en* KBo 22.2 Vs. 14

中期ヒッタイト語

aniia- 'to carry out'

pret. 3 pl. *a-ni-i-er* HKM 54 Vs. 17

ariia- 'to determine by oracle'

pres. 1 sg. *a-ri-ia-mi* HKM 21 Vs. 13

pres. 1 pl. *a-ri-ia-u-e-ni* HKM 38 Vs. 13, KBo 16.47 Vs. 17

pret. 1 sg. *a-ri-ia-nu-un* KuT 49 Vs. 9 Vs. 12

pret. 1 pl. *a-ri-ia-u-en* KuT 50 Vs. 11, KuT 49

imper. 2 sg. *a-ri-ia* KuT 50 Vs. 9

imper. 3 pl. *a-ri-ia-an-du* KuT 49 Vs. 10

huittiia- 'to draw'

pres. 2 sg. *hu-< it >-ti-ia-ši* HKM 72 Vs. 32

pret. 1 sg. *hu-it-ti-ia-nu-un* HKM 71 Rs. 28

pret. 3 sg. *hu-u-it-ti-ia-at* HKM 47 Vs. 9

pret. 2 pl. *hu-it-ti-ia-at-ten* HKM 25 Vs. 14

išparriia- 'to spread, to scatter'

pres. 3 sg. *iš-pár-ri-ez-zi* KUB 14.1 Rs. 91

lahlahhiia- 'to be perturbed, to be in commotion'

pres. 2 sg. *la-ah-la-ah−hi-ia-š[i]* HKM 66 Vs. 7, HKM 66 Ledge 5

peššiia- 'to throw'

pret. 1 sg. *pé-eš-ši-ia-nu-un* HKM 10 Rs. 39, HKM 10 Rs. 41

pret. 3 sg. *pé-eš-ši-et* KBo 8.55, 11

pret. 3 pl. *pé-eš-ši-er* KuT 50 Vs. 43

šapašiia- 'to scout'

pret. 3 pl. *ša-pa-ši-ia-ar* HKM 6 Rs. 22

šuniia- 'to sow, to scatter'

pret. 3 sg. *šu-ni-et* HKM 111 Rs. 14, HKM 111 Rs. 18

taliia- 'to leave'

pret. 3 pl. *ta-a-li-e-er* HKM 58 Vs. 9

tarkummiia- 'to report'

pret. 1 sg. *tar-kum-mi-ia-nu-un* HKM 63 Vs. 14

imper. 2 sg. *tar-kum-mi-ia-i* HKM 74 Vs. 9

tekkušši̯ia- 'to show'

pres. 3 sg. *te-ek-ku-uš-ši-ia-iz-zi* HKM 46 Vs. 14

tiia- 'to step'

pres. 1 sg. *ti-i̯a-mi* HKM 27 Rs. 15, KUB 14.1 Rs. 25

pret. 1 sg. *ti-i̯a-nu-un* HKM 63 Vs. 18

pret. 2 pl. *ti-i̯a-at-ten* HKM 18 Ledge 3

pret. 3 pl. *ti-e-er* KuT 50 Vs. 12

imper. 2 sg. *ti-i̯a* HKM 17 Ledge 3, HKM 24 Rs. 54, HKM 31 Vs. 10, HKM 31 Vs. 27, HKM 84 Vs. 6, HKM 96 Rs. 5, HKM 96 Rs. 10

imper. 3 sg. *ti-i̯a-ad-du* HKM 65 Vs. 10

tūriu̯a- 'to hitch'

pres. 3 sg. *tu-u-ri-e-ez-zi* KUB 23.77 Rs. 81, *tu-u-ri-i̯a-az-zi* HKM 60 Vs. 23

u̯emiu̯a- 'to find'

pres. 1 sg. *ú-e-mi-i̯a-mi* HKM 68 Vs. 9, KBo 8.35 iv 2

pres. 3 sg. *ú-e-mi-e-ez-zi* KUB 23.77 Rs. 60, *ú-e-mi-ez-zi* HKM 15 Vs. 5, HKM 16 Vs. 7, HKM 20 Vs. 6, *ú-e-mi-i̯a-az-zi* HKM 14 Vs. 5, *ú-e-mi-i̯a-zi* HKM 34 Vs. 7, *[ú]-e-mi-i̯a-zi* HKM 59 Vs. 11

pres. 3 pl. *ú-e-mi-i̯a-an-zi* KUB 23.77 Rs. 104

pret. 3 sg. *ú-e-mi-et* KUB 14.1 Rs. 62, *ú-e-mi-i̯a-at* HKM 47 Rs. 44, HKM 71 Vs. 14, KBo 16.97 Vs. 10

imper. 3 sg. *ú-e-mi-i̯a-ad-du* HKM 66 Rs. 30, *ú-[e]-mi-i̯a-ad-du* HKM 66 Vs. 23

zaḫhiu̯a- 'to fight'

pres. 1 sg. *za-aḫ-ḫi-i̯a-mi* KBo 16.47 Vs. 9, KBo 16.47 Vs. 12

pres. 2 sg. *za-aḫ-ḫi-i̯a-ši* KBo 16.47 Vs. 13

pres. 2 pl. *za-aḫ-ḫi-i̯a-at-te-ni* KUB 23.77 Vs. 16

pret. 3 sg. *za-aḫ-ḫi-i̯a-at* KUB 23.72 Vs. 38

pret. 3 pl. *za-aḫ-ḫi-er* KUB 14.1 Vs. 63

imper. 3 sg. *za-aḫ-ḫi-i̯a-a[d-du* KBo 16.27 iv 13

後期ヒッタイト語

aniu̯a- 'to carry out'

pres. 1 sg. *a-ni-i̯a-mi* KUB 23.125 iii 48

pres. 3 sg. *a-ni-i̯a-zi* KUB 26.1 iv 48, KUB 5.7 Vs. 37

pres. 3 pl. *a-ni-an-zi* KUB 50.6 iii 4, KBo 2.6 iii 44, *a-ni-i̯a-an-zi* KBo 2.6 i 32, KUB 5.6 ii 47, KUB 5.6 iii 22, KUB 5.6 iii 23, KUB 5.6 iii 26, KUB 5.6 iii 31, KUB 5.6 iii 33, KUB 5.6 iii 37（2x), *a-ni-[i]a-an-zi* KUB 5.6 ii 52

pret. 3 sg. *a-ni-i̯a-at* KUB 1.1 iii 55

arandalliu̯a- 'to grumble（?)'

pres. 3 pl. *a-ra-an-da-al-li-en-zi* KBo 4.7 i 24, *a-ra-an-ta-al-li-i̯a-a[n-zi]* KUB 21.1 i 63

ariia- 'to determine by oracle'

pres. 1 sg. *a-ri-i̯a-mi* KUB 22.25 Vs. 20, KUB 22.25 Vs. 32, KUB 22.25 Rs. 8, KUB 22.25 Rs. 27

pres. 3 sg. *a-ri-i̯a-zi* KUB 50.6 iii 10, KUB 16.77 ii 38, KUB 16.77 ii 45

pres. 1 pl. *a-ri-i̯a-u-e-ni* KUB 22.70 Vs. 49, KUB 22.70 Rs. 25, KUB 16.41 iii 9, KBo 2.6 iii 18, KBo 2.2 ii 32

pres. 3 pl. *a-ri-i̯a-an-zi* KUB 22.70 Vs. 73, KUB 22.70 Rs. 46, KUB 5.6 i 46, KUB 5.6 ii 64, *a-ri-i̯a-an-[zi]* KUB 5.6 ii 12, KUB 5.6 iv 10

pret. 1 sg. *a-ri-i̯a-nu-un* KBo 4.4 ii 51, KBo 4.4 ii 54, KUB 14.8 Vs. 32, KUB 14.8 Vs. 39, KUB 14.11 ii 47, KUB 26.86 iii 8, KBo 6.2 iii 48, KBo 6.2 iii 49, *a-ri-i̯a-nu-u[n]* KUB 23.3 Vs. 5, *a-ri-i̯a-n[u-un]* KUB 26.86 ii 36, *[a-r]i-i̯a-nu-un* KUB 14.11 iii 3, *a-ri-i̯a-an-nu-un* KUB 43.50 Vs. 13＋KUB 15.36 Vs. 5

pret. 3 sg. *a-ri-i̯a-at* KUB 5.6 iv 18

pret. 1 pl. *a-ri-i̯a-u-en* KUB 50.6 ii 49, KUB 50.6 ii 5, KUB 50.6 iii 32, KUB 50.6 iii 40, KBo 2.6 i 30, KBo 2.6 iii 41, *a-ri-i̯a-u-e-en* KUB 5.7 Vs. 49, KBo 2.2 ii 22

pret. 3 pl. *a-ri-i̯a-er* KBo 4.6 Vs. 26, *a-ri-i-e-er* KUB 5.6 ii 42, KUB 5.6 iii 67, KUB 5.6 iv 8

armizziia- 'to bridge'

pres. 2 sg. *ar-mi-iz-zi-i̯a-ši* KUB 26.1 iii 28

aršaniia- 'to be envious, to be angry'

pret. 3 sg. *ar-ša-ni-i̯a-at* Bo 6517

pret. 3 pl. *ar-ša-ni-i-e-er* KUB 1.5 i 7, *ar-ša-ni-i-e-e[r]* KBo 3.6 i 28

ḫaliia- 'kneel down'

pret. 3 sg. *ḫa-li-i̯a-at* KBo 3.3 i 13

pret. 3 pl. *ḫa-a-li-i-e-er* KUB 23.125 iii 19, KBo 4.4 iii 20, KBo 4.4 iii 32, *ḫa-li-e-er* KBo 14.19 iii 11

ḫališši̯ia- 'to coat'

pret. 1 sg. *ḫa-li-iš-ši-i̯a-nu-un* KBo 3.6 ii 28

ḫarnamnia- 'to stir'

pres. 2 sg. *ḫar-nam-ni-i̯a-ši* KBo 4.14 iii 66

pret. 3 sg. *ḫar-nam-ni-i̯a-at* KUB 6.41 i 33, *ḫar-nam-ni-i[a-at]* KUB 6.41 i 47

ḫarpiia- 'to separate oneself'

pres. 1 sg. *ḫar-pí-i̯a-mi* KUB 26.12 iv 47, KUB 26.13 iv 10＋KUB 21.43 iv 16

pret. 1 sg. *ḫar-pí-i̯a-nu-un* KUB 26.12 iv 46, KUB 21.43 iv 15

ḫazziia- 'to pierce, to stab'

pret. 1 sg. *ḫa-az-zi-i̯a-nu-un* KBo 4.10 Rs. 22

ḫuittii̯a- 'to draw'

pres. 1 sg. *ḫu-u-it-ti-i̯a-mi* KUB 14.4 ii 15

pres. 2 sg. SUD–*i̯a-ši* KBo 2.6 i 40, KBo 2.6 iii 49, KBo 2.6 iii 66

pres. 3 sg. SUD–*i̯a-z[i]* KBo 54.99 iii 62

pret. 1 sg. *ḫu-it-ti-i̯a-nu-un* KBo 4.4 iii 32, KBo 16.17 iii 19, KBo 16.17 iii 25, KBo 16.17 iii 55, *ḫu-u-i-it-ti-i̯a-nu-un* KBo 2.5 ii 3, *[ḫu-it]-ti-i-i̯a-nu-un* KBo 12.38 i 6

pret. 3 sg. *ḫu-u-it-ti-i̯a-at* KUB 14.4 iv 15, *ḫu-it-ti-i̯a-at* KBo 4.12 i 16, *ḫu-it-ti-at* Bronze Tablet i 23

ḫulli̯a- 'to fight'

pres. 3 sg. *ḫu-ul-li-i̯a-az-zi* KBo 4.10 Vs. 46

pret 1 sg. *ḫu-ul-li-i̯a-nu-un* KUB 1.1 ii 25, KBo 3.6 ii 9, KUB 14.3 i 25

pret. 3 sg. *ḫu-ul-li-i-e-et* KUB 14.15 i 29, *ḫu-ul-li-i̯a-at* KUB 14.22 i 5, KBo 14.3 iv 33, KUB 19.18 i 28, KBo 16.17 iii 40, *ḫu-u-ul-li-i̯a-at* KUB 19.8 iii 30

ilali̯a- 'to desire'

pres. 2 sg. *i-la-li-i̯a-ši* KBo 5.13 ii 17, KBo 4.3 i 29, KBo 4.3 i 46, KUB 6.41 ii 20, KUB 19.49 i 65, Bronze Tablet iv 7, KUB 23.1 ii 14, *i-la-a-l[i-i̯]a-ši* KUB 19.49 i 67, *[i-l]a-li-i̯a-ši* KUB 21.1 ii 47, KUB 23.1b, 1

pres. 3 sg. *i-la-li-i̯a-zi* KUB 26.12 i 21, KUB 26.12 i 39, KUB 26.1 iv 5, *i-la-li-i̯a-z[i]* KUB 1.1 iv 83, KUB 26.12 iv 40

pres. 2 pl. *i-la-li-i̯a-at-te-ni* KUB 26.12 i 38

išḫi̯a- 'to bind'

pres. 3 sg. *iš-ḫi-i̯a-az-zi* KBo 14.3 iv 41

pres. 2 pl. *iš-ḫi-i̯a-at-te-e-ni* KUB 14.8 Rs. 35

pret. 3 sg. *iš-ḫi-i̯a-at* KBo 14.12 iv 31

iš-tar-ak-ki-i̯a- 'to ail'

iš-tar-ak-ki-i̯a-a[t] KUB 14.16 iii 41

kari̯a- 'to stop, to pause'

pres. 3 sg. *ka-ri-i̯a-zi* KUB 22.25 Vs. 26, KUB 22.25 Rs. 20, KUB 22.25 Rs. 30, *[ka-r]i-i̯a-zi* KUB 22.25 Vs. 37, *ka-r[i-i̯]a-zi* KUB 22.25 Rs. 11, *ka-a-ri-i̯[a-zi]* KUB 40.99 Vs. 4

karši̯a- 'to cut, to separate'

pres. 1 sg. *[k]a-ru-uš-ši-i̯a-mi* KBo 8.43 Rs. 6

pres. 2 sg. *ka-ru-uš-ši-i̯a-ši* KUB 21.5 iii 10

pret. 1 sg. *ka-ru-uš-ši-i̯a-nu-un* KBo 4.12 i 26

pret. 3 sg. *ka-ru-uš-ši-i̯a-at* KBo 4.7 ii 9, KUB 22.70 Vs. 62, KUB 22.70 Vs. 75

gimmandariia- 'to spend the winter'

pret. 1 sg. *gi-im-ma-an-da-ri-ia-nu-un* KUB 23.125 iii 41, KBo 4.4 iii 41, *gi-im-ma-an-ta-ri-ia-nu-un* KBo 4.4 iii 56, KBo 5.8 ii 7, KUB19.37 ii 38, *gi-im-ma-an-ta-ri-ia-nu-[un]* KUB 14.15 i 22

markiia- 'to disapprove of'

pres. 1 sg. *mar-ki-ia-mi* KBo 4.14 iii 3, KUB 26.1 iv 24

pres. 2 sg. *mar-ki-ia-ši* KUB 21.38 Vs. 9

pret. 3 sg. *mar-ki-ia-at* KUB 21.38 Rs. 10, KUB 5.6 i 9

naḫšariia- 'to be afraid'

pres. 3 sg. *na-aḫ-ša-ri-ia-az-zi* KUB 19.54 i 10

pres. 3 pl. *na-aḫ-ša-ri-ia-an-zi* KBo 5.6 iii 6

pret. 2 pl. *na-aḫ-šar-ri-ia-at-ten* KBo 14.12 iv 9

parḫiia- 'to chase'

pret. 3 sg. *pár-ḫi-ia-at* KBo 16.36 iii 5

peššiia- 'to throw'

pres. 1 sg. *pé-eš-še-ia-mi* KUB 21.5 ii 7, *pí-iš-ši-ia-mi* Bronze Tablet ii 96, KBo 4.14 iii 2

pres. 2 sg. *pé-eš-ši-ia-ši* KUB 26.58 Rs. 1a

pres. 2 pl. *pé-eš-ši-ia-at-te-ni* KUB 26.58 Rs. 3a

pres. 3 pl. *pé-eš-ši-ia-an-zi* KUB 21.29 iii 32, KUB 22.70 Rs. 55

pret. 1 sg. *pé-eš-ši-ia-nu-un* KBo 5.9 i 12, KBo 4.7 ii 2, KBo 5.13 i 24, KBo 4.3 i 13, KUB 6.44 iv 11, KBo 19.67 iv 29, KBo 6.29 iii 30, Bronze Tablet iii 34, *[p]é-eš-š[i-i]a-nu-un* KBo 19.67 iv 33

pret. 3 sg. *pé-eš-ši-ia-at* KUB 6.44 i 6, ABoT 57 Vs. 16, KUB 22.70 Rs. 2, KUB 22.70 Rs. 47, ABoT 14 ii 6, KUB 34.48 i 3, KUB 22.27 i 8, KUB 5.24 i 62, KUB 16.31 iv 21, *pé-eš-ši-ia-a[t]* KUB 22.27 i 30, *pí-iš-ši-ia-at* KUB 5.6 i 12, KUB 5.7 Vs. 25, *pí-iš-ši-at* Bronze Tablet iii 34, KBo 4.10 Vs. 43

pret. 2 pl. *pé-eš-ši-ia-at-ten* KUB 26.12 iv 21

imper. 2 sg. *pé-eš-ši-ia* KUB 14.7 iv 4, KUB 14.7 iv 11

imper. 3 pl. *pé-eš-ši-ia-an-du* KUB 18.12 Vs. 38, KUB 18.12 Rs. 25, KBo 2.6 iii 16, KUB 5.24 i 11, KUB 5.24 ii 33, KUB 5.13 iv 5, *pé-eš-ši-ia-an-[du]* KUB 18.57 iii 12, KUB 5.19, 4, *pé-eš-ši-an-du* KUB 18.57 iii 3, KUB 5.21 Vs. 6

putalliia- 'to tie together'

pret. 1 sg. *pu-tal-li-ia-nu-un* KBo 5.8 iii 13

šakiia- 'to give a sign'

pres. 3 sg. *ša-ki!-ia-zi* KBo 18.23 Rs. 3

pret. 1 sg. *[š]a-ki-i̯a-nu-un* KBo 18.23 Vs. 13

šakuu̯antariia- 'to stay, to remain'

pret. 1 sg. *ša-ku-u̯a-an-ta-ri-i̯a-nu-un* KBo 5.8 i 38, KUB19.37 iii 26

šarriia- 'to divide, to cross'

pres. 3 pl. *šar-ri-i̯a-an-zi* KUB 5.6 iii 27

pret. 3 sg. *šar-ri-et* KBo 16.17 iii 62

pret. 3 pl. *šar-ri-i-e-er* KBo 14.13 ii 9, KUB 14.8 Vs. 19, KUB 14.8 Vs. 36, *šar-ri-i-e-[er]* KBo 2.5 iv 13, *šar-ri-e-[er]* KUB 14.14 Vs. 22, *[šar]-ri-e-er* KUB 14.11 ii 44

šiia- 'to press, to seal'

pres. 3 pl. *ši-i̯a-an-zi* KBo 3.3 iv 13

pret. 3 pl. *ši-i̯a-er* KBo 3.3 iv 5

šulliia- 'to quarrel, to become arrogant'

pres. 2 sg. *šu-ul-li-i̯a-ši* KBo 19.70, 11

pres. 3 sg. *šu-ul-li-i̯a-zi* KUB 14.3 iv 39

pret. 3 sg. *šu-ul-li-e-et* KBo 16.17 iii 28, *šu-ul-li-et* KUB 6.41 i 32, *šu-ul-li-i̯a-at* KUB 1.4 iii 44, KUB 26.58 Rs. 5a, *[šu-ul]-li-i̯a-at* KUB 1.4 iii 36, *šu-ul-li-i̯a-a[t]* KUB 1.4 iii 42+674/v, *šu-ul-li-i̯a-[at]* KUB 1.9 iii 7

pret. 3 pl. *šu-ul-li-i-e-er* KBo 5.8 iv 9

šunniia- 'to dip'

pres. 3 sg. *šu-un-ni-i̯a-zi* KUB 6.45 iv 9, KUB 6.45 iv 14, KUB 6.45 iv 19, KUB 6.45 iv 24, KUB 6.45 iv 29, KUB 6.46 i 41, KUB 6.46 i 54, KUB 6.46 i 58, KUB 6.46 i 62

daliia- 'to let, to leave'

pres. 1 sg. *da-a-li-i̯a-mi* KUB 21.5 ii 2, *[d]a-a-li-i̯a-mi* KUB 21.1 i 77, *da-li-i̯a-mi* KUB 14.3 iii 55

pres. 2 sg. *da-a-li-i̯a-ši* KUB 21.16 i 20, *da-a-li-[i]a-ši* KUB 19.49 i 55

pres. 3 sg. *da-li-i̯a-zi* KUB 14.3 iii 57, KUB 5.6 iii 35

pres. 3 pl. *da-a-li-i̯a-an-zi* KUB 22.70 Vs. 46, KUB 5.6 iii 23

pret. 1 sg. *da-li-i̯a-nu-un* KBo 3.3 ii 3, KUB 19.41 ii 6, KBo 5.4 Vs. 25, KBo 5.13 iv 3, KUB 6.41 i 18, KBo 19.67 iv 11, KUB 1.7 ii 21, KUB 14.3 i 38, KUB 14.3 ii 33, *da-li-i̯a-nu-u[n]* KBo 4.7 i 17, KUB 6.44 i 17, *da-a-li-i̯a-nu-un* KUB 21.5 ii 1, KUB 1.1 iii 26, *da-a-li]-i̯a-nu-un* KUB 19.67 i 21, *[da-a-]li-i̯a-nu-un* KUB 19.67 i 22, KUB 19.67 i 23, *ta-a-li-i̯a-nu-un* KUB 26.32 i 15

pret. 3 sg. *da-a-li-i̯a-at* KUB 1.1 ii 55, KUB 1.4 iii 37, *da-li-i̯a-at* KUB 1.6 iii 16, *da¹-li-i̯a-at* KBo 3.6 ii 36

taparriia- 'to rule, to lead'

pres. 2 sg. *ta-þár-ri-i̯a-ši* KUB 21.1 i 65, KUB 26.25 ii 9, KUB 26.25 ii 12

dariu̯a- 'to make an effort, to get tired'

pres. 3 sg. *da-ri-i̯a-nu-zi* KUB 14.3 ii 56

pret. 1 sg. *ta-a-ri-i̯a-nu-un* KUB 26.33 iii 11

pret. 3 sg. *da-a-ri-i̯a-at* KBo 4.12 i 7, *da-ri-i̯a-at* KUB 21.27 iv 39

taštašiu̯a- 'to conspire'

pres. 3 sg. *ta-aš-ta-ši-i̯a-zi* KBo 5.13 iv 10, KBo 19.67 iv 18

tiu̯a- 'to step'

pres. 1 sg. *ti-i̯a-mi* KUB 23.125 iii 85, KUB 23.125 iii 86, KBo 5.4 Rs. 7, KBo 5.4 Rs. 8, KBo 4.3 iv 18, KUB 26.12 ii 7, KUB 26.12 ii 8, KUB 26.1 i 46

pres. 2 sg. *ti-i̯a-ši* KBo 5.13 ii 7, KBo 5.13 ii 15, KBo 5.13 ii 21, KBo 4.3 iv 32, KBo 19.70, 12, KBo 4.14 i 23, KBo 4.14 i 45, *[t]i-i̯a-ši* KUB 6.41 iii 7, KUB 6.46 iii 54

pres. 3 sg. *ti-i-e-ez-zi* KBo 5.9 iii 13, *ti-i̯a-az-zi* KUB 26.43 Vs. 52, KUB 26.43 Rs. 14, KBo 26.50 Rs. 6, *ti-i̯a-zi* KBo 1.28 Vs. 14, KBo 3.3 iii 17, KBo 19.70, 8, KUB 21.1 ii 46, KUB 21.17 iii 9, Bronze Tablet iii 29, KBo 4.14 i 9, KBo 4.14 i 31, KUB 14.3 ii 42, KUB 26.12 iii 12, KUB 26.12 iii 30, KUB 26.1 iv 9, KUB 26.1 iv 45, KUB 31.97 iv 3, ABoT 56 iv 4, KBo 11.1 Vs. 25, KUB 18.12 Vs. 3, KBo 2.2 iii 7, *[t]i-i̯a-zi* KUB 19.41 iii 17, *ti-i̯a-[zi]* KBo 19.70, 6, *ti-i-i̯a-a[z-zi]* KUB 26.43 Vs. 20

pres. 1 pl. *ti-i-i̯a-u-e-ni* KUB 14.16 iii 6, KUB 14.15 iii 38, KBo 4.4 iii 35, KBo 4.4 iv 47, *ti-i̯a-u-e-ni* KBo 16.8 ii 36, KBo 6.29 ii 4, KUB 26.12 ii 35, KUB 26.12 iii 10, KBo 2.6 iii 19, KUB 5.11 ii 3

pres. 3 pl. *ti-i̯a-an-zi* KBo 3.3 iv 9, Bronze Tablet ii 27, KBo 4.14 iii 65, KUB 6.46 iv 25, KUB 22.25 Vs. 38, KUB 18.12 Vs. 4, KUB 22.70 Rs. 5, KUB 22.70 Rs. 16, KUB 22.70 Rs. 24, ABoT 14 iii 11, KUB 22.35 ii 4, KUB 16.32 ii 12, KUB 50.6 iii 12, KUB 16.77 ii 16, *t[i]-i̯a-an-zi* KUB 22.25 Rs. 21, *ti-[i̯a]-an-zi* KUB 50.6 iii 21, *ti-i̯a-an-z[i]*, KUB 22.35 iii 16, *ti-an-zi* KBo 4.3 iv 17 (2x), KBo 11.1 Vs. 37, KUB 21.19 iv 18, KBo 2.6 i 35, KUB 18.51 ii 19, KUB 5.6 i 17, KUB 5.6 i 47, KUB 5.11 iv 38, KUB 16.77 ii 40, *ti-i-i̯a-an-zi* KUB 5.6 i 23, *ti-en-zi* KUB 21.5 ii 14, *t[i-e]n-zi* KUB 21.1 ii 7

pret. 1 sg. *ti-i̯a-nu-un* KBo 3.4 i 21, KUB 23.125 iii 20, KUB 23.125 iii 97, KUB 14.15 iv 32, KBo 5.8 i 15, KBo 3.3 iii 7 (2x), KBo 4.7 i 12, KUB 6.41 i 37, KUB 26.32 i 16, KUB 23.44 ii 6, KUB 14.3 ii 21, KUB 31.121 iii 20, *ti-i̯a-nu-[un]* KBo 16.1 i 33, KUB 6.44 i 12, *ti-i-i̯a-nu-un* KUB 14.16 ii 16, KUB 14.16 iv 15, KBo 4.4 iii 3, KUB 19.41 iii 5

pret. 3 sg. *ti-i-e-et* KBo 5.8 i 35, KUB 14.4 ii 12, *ti-i̯a-at* KBo 3.4 i 27, KBo 3.4 ii 3, KBo 3.4 ii 24, KBo 3.4 ii 60, KUB 23.125 iii 36, KBo 5.8 iii 25, KBo 16.8 iii 30, KBo 3.3 i 9, KBo 4.7 i 10, KBo 4.3 iv 13, KUB 14.15 iv 41, KUB 19.49 i 33, KBo 14.19 ii 8, KBo 14.19 ii 9, 1.1 i

52, KUB 1.1 ii 66, KUB 1.1 iv 17, KBo 3.6 i 44, KBo 3.6 ii 46, KBo 6.29 ii 14, KBo 6.29 ii 17, KBo 14.4 i 6, KBo 5.6 iv 14, KUB 21.15 ii 18, KUB 23.1 ii 28, KUB 23.92 Vs. 9, KUB 14.3 i 23, KUB 14.3 iii 48, KUB 26.58 Vs. 7, KUB 21.19 ii 14, KUB 43.50 Vs. 7, KBo 6.2 iii 46, KUB 5.1 i 7, KUB 5.1 iii 44, KUB 22.70 Vs. 16, KUB 5.24 i 29, *[t]i-i̯a-at* KUB 19.49 i 32, KUB 1.5 i 24, *ti-i̯a-a[t]* KUB 1.1 iv 29, *ti-i-i̯a-at* KUB 14.16 iii 28, KUB 14.15 iv 17, KUB 14.15 iv 26, KUB 14.15 iv 27, KBo 4.4 ii 74, KBo 14.20 i 8, KUB 21.2 i 8, KBo 3.6 iii 48, KBo 3.6 iii 59, KUB 1.10 iii 36, KBo 12.38 iii 6, *ti-i-[i̯a-a]t* KUB 14.14.55 Rs. 5

pret. 1 pl. *ti-i̯a-u-en* KUB 5.4 i 11, KUB 19 Vs. 37, KUB 5.8, 3, *ti-i̯a-u-[e]n* KUB 18.12 Rs. 15, *ti-i-i̯a-u-en* KUB 5.22, 18, KUB 5.22, 28, KUB 5.22, 48

pret. 2 pl. *ti-i̯a-at-ten* KBo 6.29 ii 15, KBo 5.4 Rs. 17, ABoT 56 i 9, *ti-i-i̯a-a[t-ten]* KUB 14.13 i 37

pret. 3 pl. *ti-i-e-er* KUB 19.11 i 7, KUB 19.31 ii 3, KBo 5.8 ii 5, KBo 14.19 ii 18, KBo 2.5 ii 10, KBo 16.17 iii 38, KBo 3.3 ii 20, KUB 21.1 i 47, KUB 19.60 iv 53＋KUB 1.1 iv 53, KBo 3.6 i 29, KBo 3.6 ii 25, KBo 3.6 iii 58, KBo 3.6 iv 12, KBo 3.6 iv 13, KUB 21.15 ii 16, KUB 23.1 i 34, KUB 5.6 iii 73, *ti-i-e-e[r]* KUB 19.41 ii 24, KUB 19.9 ii 16, *[ti-]i-e-er* KUB 1.1 i 34, KUB 1.6 ii 4, KUB 26.43 Rs. 4, *ti-[i]-e-er* KBo 6.29 ii 15, *ti-i-er* KUB 19.67 i 8, KUB 22.70 Vs. 45, KUB 22.70 Rs. 13, *ti-e-er* KUB 1.8 iv 13, KUB 1.8 iv 31, KUB 1.8 iv 32, KUB 21.29 ii 2

imper. 2 sg. *ti-i̯a* KBo 3.4 i 26, KUB 21.27 ii 14, KUB 21.27 ii 19, KUB 21.27 iv 35, *ti-i-i̯a* KUB 14.3 iii 64, *[t]i-i-i̯a* KUB 14.3 iv 2

imper. 3 sg. *ti-i̯a-[a]d-du* KUB 21.29 ii 11

imper. 3 pl. *ti-i̯a-an-du* KBo 4.14 iii 64, *ti-an-du* KUB 5.11 i 14

tūri̯i̯a- 'to hitch'

pres. 3 sg. *tu-u-ri-i̯a-zi* KBo 4.14 iii 43

duškii̯a- 'to be happy'

pres. 3 sg. *du-uš-ki-i̯a-zi* KUB 14.7 iv 14

tuzzii̯a- 'to encamp'

pret. 1 sg. *tu-uz-zi-i̯a-nu-un* KUB 14.16 ii 10, KBo 5.8 i 29, KUB 29.30 iv 4, KUB19.37 iii 35, KUB 19.76 i 36, *[tu]-uz-zi-i̯a-nu-un* KUB 14.17 iii 15, *tu-uz!-zi-i̯a-nu-un* KUB 19.36 i 26, *[t]u-uz-zi-i̯a-nu-un* KUB 19.76 i 23

u̯aggarii̯a- 'to rebel against'

pres. 3 sg. *u̯a-ag-ga-ri-ez-zi* KUB 21.1 iii 41, *u̯a-ag-ga-ri-i̯a-az-zi* KUB 19.54 i 8, KUB 19.54 i 14, *u̯a-ag-ga-ri-i̯a-zi* KBo 5.13 iii 12, KBo 5.13 iii 13, KUB 21.5 ii 4, KUB 21.5 ii 5, *u̯a-aq-qa-ri-i̯a-zi* KUB 21.5 iii 57, *u̯a-aq-qa-a-ri-i̯a-zi* KBo 4.3 ii 8, KBo 4.3 ii 9, KUB 6.44 iii 31, KUB 6.44 iii 32

pret. 1 sg. *u̯a-ag-ga-ri-i̯a-nu-un* KUB 1.4 iii 34, *[u̯a-ag-g]a-ri-i̯a-nu-un* KUB 1.4 iii 35, *u̯a-aq-qa-ri-i̯a-nu-un* KUB 1.6 iii 13, KUB 1.6 iii 14

u̯akšii̯a- 'to be lacking'

pres. 3 sg. *u̯a-ak-ši-i̯a-zi* Bronze Tablet ii 74

u̯aršii̯a- 'to lift'

pres. 3 sg. *u̯a-ar-ši-i̯a-az-zi* KUB 14.8 Rs. 28, *u̯a-ar-ši-i̯a-zi* KUB 14.3 ii 67, KUB 14.3 ii 68

pret. 1 sg. *u̯a-ar-ši-i̯a-nu-un* KUB 14.15 iii 26, *u̯a-ar-ši-i̯a-nu-nu-un* KBo 12.38 ii 21

imper. 2 sg. *u̯a-aš-ši-i̯[a]* KUB 26.25 ii 7

imper. 3 sg. *u̯a-ar-ši-i̯a-ad-du* KUB 14.8 Rs. 17, KUB 14.11 iii 38

u̯ašii̯a- 'to buy'

pres. 3 sg. *u̯a!-ši-i̯a-zi* KUB 21.29 iii 37, *u̯a-ši-i̯a-z[i]* KUB 23.123, 9

pret. 3 sg. *u̯a-aš-ši-i̯a-at* KBo 4.6 Rs. 13

imper. 3 pl. *u̯a-aš-ši-i̯a[-an-du]* KUB 22.70 Vs. 45

u̯emii̯a- 'to find'

pres. 1 sg. *ú-e-mi-i̯a-mi* KUB 14.3 i 19, KBo 11.1 Vs. 41

pres. 2 sg. *ú-e-mi-i̯a-ši* KUB19.37 ii 32

pres. 3 sg. *ú-e-mi-i̯a-zi* KUB 19.11 i 4, KUB 23.101 ii 7, KBo 2.2 i 4, KBo 2.2 i 8, KBo 2.2 i 14, KBo 2.2 i 46, KAR-*i̯a-zi* KUB 5.4 i 20, KBo 2.2 i 55

pres. 3 pl. *ú-e-mi-i̯a-an-zi* KUB 22.70 Rs. 60, KUB 22.70 Rs. 61, *ú-e-mi-i̯a-< an >-zi* KUB 21.38 Vs. 18

pret. 1 sg. *ú-e-mi-i̯a-nu-un* KBo 4.4 iii 37, KBo 7. 17 iv 1+KBo 16.13 iv 2, KBo 14.19 ii 26, KUB 19.76 i 33, KUB 14.8 Vs. 32, KUB 14.13 i 55, *[ú]-e-mi-i̯a-nu-un* KUB 21.38 Vs. 61, *[ú-e]-mi-i̯a-nu-un* KUB 21.36, 2

pret. 3 sg. *ú-e-mi-i̯a-at* KBo 4.4 ii 73, KBo 4.4 iii 15, KUB 19.34 iv 5, KUB 21.16 i 23, KUB 14.3 i 53, KUB 14.13 i 52

pret. 3 pl. *ú-e-mi-i-e-er* KBo 4.4 iii 22, KUB 1.7 ii 13, *[ú-e]-mi-e-er* KBo 14.14, 3, KUB 1.1 iii 18, *ú-e-mi-er* KUB 19.67 i 8, KUB 22.70 Vs. 23, KUB 22.70 Vs. 26, KUB 5.6 i 7

imper. 3 pl. *ú-e-mi-i̯a-an-du* KUB 26.12 iv 48

u̯erii̯a- 'to call, to summon'

pres. 2 sg. *ú-e-ri-i̯a-ši* KUB 21.5 iii 11

pres. 3 sg. *ú-e-ri-az-zi* KUB 5.1 ii 107

pres. 3 pl. *ú-e-ri-i̯a-an-zi* KUB 21.29 iii 46, KUB 5.11 iv 21, *ú-e-ri-an-zi* KUB 50.6 iii 8

pret. 3 sg. *ú-e-ri-at* KUB 1.9 iii 12

pret. 3 pl. *ú-e-ri-i-e-[er]* KBo 4.4 ii 2

zaḫhii̯a- 'to fight'

pres. 2 sg. *za-aḫ-ḫi-i̯a-ši* KBo 5.4 Rs. 46, KBo 5.4 Rs. 47, KUB 21.1 iii 52, KUB 21.1 iii 53, *[z]a-a[ḫ-ḫ]i-i̯a-ši* KUB 21.5 iii 69

pres. 1 pl. *za-aḫ-ḫi-i̯a-u-e-ni* KBo 5.4 Rs. 27

pret. 1 sg. *za-aḫ-ḫi-i̯a-nu-un* KBo 3.4 ii 3, KBo 3.4 ii 25, KBo 3.4 ii 38, KUB 23.125 iii 14, KUB 23.125 iii 44, KUB 23.125 iii 38, KBo 16.8 iii 30, KBo 3.6 ii 8, *[za]-aḫ-ḫi-i̯a-nu-un* KBo 16.1 iii 46, *za-aḫ-ḫi-i̯a-nu-u[n]* KBo 4.4 iii 8, *za-aḫ-ḫi-i̯a-nu-[u]n* KUB 1.1 ii 24, MÈ-*i̯a-nu-un* KBo 3.4 i 38, KBo 3.4 ii 60, KBo 16.1 ii 53

pret. 3 sg. *za-aḫ-ḫi-i̯a-at* KUB 21.10, 15

参考文献

Alp, S. (1991) *Hethitische Briefe aus Maşat – Höyük*. Ankara : Türk Tarih Kurumu Basımevi.

Eichner, H. (1973) Die Etymologie von heth. *mēhur*. *Münchener Studien zur Sprachwissenschaft* 31, 53–107.

——— (1975) Die Vorgeschichte des hethitischen Verbalsystems. In : H. Rix (ed.) *Flexion und Wortbildung : Akten der V. Fachtagung der Indogermanischen Gesellschaft. Regensburg, 9.-14. September 1973*. Wiesbaden, 71–103.

Güterbock, H. G., H. A. Hoffner, and T. P. J. van den Hout (eds.) (2002) *The Hittite Dictionary of the Oriental Institute of the University of Chicago*. Vol. Š. Fasc. 1. Chicago.

Jamison, S. W. (1979) Voice Fluctuation in the Rig Veda : Medial *-anta* in Active Paradigms. *Indo-Iranian Journal* 21, 149–69.

Kloekhorst, A. (2008) *Etymological Dictionary of the Hittite Inherited Lexicon*. Leiden.

Mayrhofer, M. (1982) Welches Material aus dem Indo-Arischen von Mitanni verbleibt für eine selective Darstellung? In E. Neu (ed.) *Investigationes Philologicae et Comparativae : Gedenkschrift für Heinz Kronasser*. Wiesbaden, 72–90.

Melchert, H. C. (1988) Word-final *-r* in Hittite. In : Y. L. Albeitman (ed.) *A Linguistic Happening in Memory of Ben Schwartz*. Louvain-la-Neuve, 215–34.

——— (1994) *Anatolian Historical Phonology*. Amsterdam.

Morpurgo Davies, A. (1982/83) Dentals, Rhotacism and Verbal Endings in the Luwian Languages. *Zeitschrift für Vergleichende Sprachforschung* 96, 245–70.

Narten, J. (1968) Zum "proterodynamischen" Wurzelaorists. In : J. C. Heesterman, G. H. Schokker and V. I. Subramoniam (eds.) *Pratidānam, Indian, Iranian and Indo-European Studies Presented to Franciscus Bernardus Jacobus Kuiper*. The Hague/Paris, 9–19.

Neu, E. (1989) Zu einer hethitischen Präteritalendung *-ar*. *Historische Sprachforschung* 102, 16–20.

Oettinger, N. (1979) *Die Stammbildung des hethitischen Verbums*. Nürnberg : Hans Carl.

Szemerényi, O. (1976) The Problem of Aryan Loanwords in Anatolian. In : *Scritti in onore de Giuliano Bonfante*. Vol. 2. Brescia, 1063–70.

van Brock, N. 1962. Dérivés nominaux en *-l-* du Hittite et du Louvite. *Revue Hittite et Asianique* 20,

69–168.

Watkins, C. (1982) A Greco-Hittite Etymology. In: J. Tischler (ed.), *Serta Indogermanica: Festschrift für Günter Neuman zum 60. Geburtstag*. Innsbruck, 455–457.

Yoshida, K. (1990) *The Hittite Mediopassive Endings in* -ri. Berlin.

——— (1991) Reconstruction of Anatolian Verbal Endings: The Third Person Plural Preterites. *Journal of Indo-European Studies* 19, 357–74.

——— (1993) Notes on the Prehistory of Preterite Verbal Endings in Anatolian. *Historische Sprachforschung* 106, 26–35.

——— (1997) A Further Remark on the Hittite Verbal Endings 1 pl. -*wani* and 2 pl. -*tani*. In: D. Q. Adams (ed.) *Festschrift for Eric P. Hamp*. Volume 2 (*The Journal of Indo-European Studies Monograph Series*, No. 44). Washington D. C., 187–94.

——— (1998) Hittite Verbs in -*Vzi*. In: S. Alp and A. Süel (eds.) *Acts of the IIIrd International Congress of Hittitology, 16-20 September 1996, Çorum, Turkey*. Ankara, 605–14.

——— (2009) On the Origin of Thematic Vowels in Indo-European Verbs. In: K. Yoshida and B. Vine (eds.) *East and West: Papers in Indo-European Studies*. Bremen, 265–280.

——— (2010) Observations on the Prehistory of Hittite *i̯e/a*-verbs. In: R. Kim, N. Oettinger, E. Rieken and M. Weiss (eds.) *Ex Anatolia Lux. Anatolian and Indo-European Studies in Honor of H. Craig Melchert on the Occasion of his Sixty-fifth Birthday*. Ann Arbor, 385–93.

——— (2011) Proto-Anatolian as a Mora-based Language. *Transactions of the Philological Society* 109/1, 92–108.

——— (2012) Notes on Cuneiform Luvian Verbs in *-*ye/o*-. In: H. C. Melchert (ed.) *The Indo-European Verb. Proceedings of the Conference of the Society for Indo-European Studies, Los Angeles 13-15 September 2010*. Wiesbaden, 343–351.

——— (2014) The Thematic Vowel *-*e/o*- in Hittite Verbs. In: H. C. Melchert, E. Rieken and T. Steer (eds.) *Munus Amicitiae: Norbert Oettinger a Collegis et Amicis Dicatum*. Ann Arbor, 373–84.

——— (2021) Inferring Linguistic Change from a Permanently Closed Historical Corpus. In: R. D. Janda, B. D. Joseph and B. S. Vance (eds.) *The Handbook of Historical Linguistics,* Volume 2. Oxford, 196–213.

（京都産業大学外国語学部）